

次期長野県食と農業農村振興計画(素案)の概要

第1章 計画策定の基本的な考え方

- | | |
|--|---|
| <p>1 策定の趣旨 「長野県食と農業農村振興の県民条例」の基本理念を踏まえ、食と農業・農村の持続的発展を目指し、方向性を指し示す。</p> <p>2 策定年月日 令和5年(2023年)2月予定</p> <p>3 計画期間 令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)(5年間)</p> <p>4 計画の進行管理 毎年度、進捗状況を、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表</p> <p>5 計画の推進 県の取組に加え、市町村、農業団体等の「参画」と、県民等の「協働」を基本姿勢として、それぞれが責務と役割をもって一体となり計画を推進</p> | <p>6 食と農業・農村を取り巻く社会情勢の変化</p> <p>ア 人口減少と少子高齢化の更なる進行</p> <p>イ 脱炭素社会構築の必要性</p> <p>ウ 新技術、デジタル化の加速</p> <p>エ 地方回帰に対する意識の高まり</p> <p>オ 新型コロナウイルス感染症の影響</p> <p>カ 国際情勢の変化</p> |
|--|---|

【現状と課題】

- ・高齢化の進行による基幹的農業従事者の減少への対応
- ・リタイア農家(農地)の受け皿となる担い手の不足への対応
- ・需要に応じた主食用米の生産と、収益性の高い園芸作物等の導入への対応
- ・世界情勢の不安から輸入に依存する穀物(小麦等)の生産拡大や生産資材高騰への対応
- ・SDGsの観点から、有機農業を含む環境にやさしい農業の面的拡大と地産地消の拡大への対応
- ・デジタル技術等の活用による省力化・効率化等への対応

第2章 食と農業・農村の振興に関する施策

1 基本目標

2 めざす姿

3 施策体系

I 皆が憧れ、稼げる信州の農業

- 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保
 - ア 信州農業をけん引する中核的経営体の確保・育成
 - イ 新規就農者の安定的な確保
 - ウ 地域農業の将来像の明確化による担い手確保と農地集積の推進
 - エ 多様な人材の呼び込みによる支え手の確保
- 「稼げる農業」の展開と信州農畜産物の持続的な生産
 - ア くだもの王国づくりの推進
 - イ マーケットニーズに応える信州農畜産物の生産
 - ウ 農村のDX及びスマート農業の推進による生産性の向上
 - エ 有機農業などの持続可能な農業の面的拡大と安全安心な農畜産物の生産
 - オ 持続可能な農業を推進するための技術の開発・普及
 - カ 稼ぐ産地を支える基盤整備の推進
- 実需者ニーズに対応した県産農畜産物の販路開拓・拡大
 - ア 県オリジナル品種など県産食材の魅力・価値の発信
 - イ 稼ぐ力の強化につながる輸出の拡大
 - ウ 多様な主体との連携や地域資源の活用による新たな価値の創出
 - エ 多様なニーズに対応した流通機能の強化

II しあわせで真に豊かな暮らしを実現する信州の農村

- 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり
 - ア 地域農業の将来像の明確化による適切な農地利用
 - イ 多様な人材の活躍による農村の振興
 - ウ 地域ぐるみで取り組む多面的機能の維持活動
 - エ 農村型の地域運営組織の組織化推進による農村コミュニティの維持
- 安全安心で持続可能な農業・農村の基盤づくり
 - ア 災害から暮らしを守る農業・農村の強靱化
 - イ 持続可能な営農を支える農地・農業用施設の整備

III 魅力あふれる信州の食

- 食の地産地消を始めとするエンカシ消費の推進
 - ア 持続可能な暮らしを支える地産地消・地消地産の推進
 - イ 有機農産物など環境にやさしい農産物等の消費拡大
- 次代を担う世代への食の継承
 - ア 伝統野菜など地域ならではの食文化の継承
 - イ 農業者と関係機関の連携による食育・農育の推進

4 農業生産構造等の目標

- ア 農業・農村の展望
- イ 経済努力目標
- ウ 経済努力目標の内訳
- エ 施策の達成指標

5 重点的に取り組む事項

【プロジェクト1】

「大規模経営体等の信州農業を担う人材の確保と育成」

【プロジェクト2】

「日本一を目指す果樹四大品目(りんご、ぶどう、なし、もも)の産地力向上」

【プロジェクト3】

「デジタル技術等の活用による農業の生産性向上と豊かな農村生活の実現」

【プロジェクト4】

「有機農業の面的拡大や温暖化緩和技術の開発等による持続可能な農業と食の展開の推進」

【プロジェクト5】

「信州農畜産物の輸出拡大」

6 施策の展開方向

- 第1節 皆が憧れ、稼げる信州農業
- 第2節 しあわせで真に豊かな暮らしを実現する信州の農村
- 第3節 魅力あふれる信州の食

※下線の項目については、第3回審議会時から加筆・修正

第3章 地域別の発展方向

- 県内10地域ごとの特性を踏まえた将来の発展方向、将来目標、具体的な取組内容を記した地域計画

【佐久】

- ・求める担い手を明確にする地域計画(人・農地プラン)の策定推進
- ・水田農業における雑草イネの発生面積の削減と、スマート農業技術の導入推進による生産性の向上
- ・露地葉菜類における、計画生産・安定出荷及びグリーン栽培の推進

【上田】

- ・上田地域の“めざす姿”を明確化した就農相談や研修制度の充実による意欲ある新規就農者の確保や早期育成に向けた支援体制を強化
- ・各種施設の導入と新技術の普及による気象災害等に強い産地づくりを推進

【諏訪】

- ・野菜、花き等の担い手に加え、温暖化を見越し果樹など多様な経営体を育成
- ・緑肥や捕獲作物の活用等減化学肥料・農業によるグリーン農業の取組を推進

【上伊那】

- ・地域の話し合いによる、地域農業の将来像の明確化を支援
- ・高収益作物や土地利用型作物新品種の導入と生産安定による水田農業経営体の体質強化

【南信州】

- ・労働力不足に対応するため、マッチング機会の創出や農福連携等による人材確保などへの取組を推進
- ・日本なしの新たな担い手確保や生産力強化による産地の再構築
- ・スマート農業の推進による省力化や生産性向上

【木曾】

- ・計画的な農地の利用・保全に向けた地域計画等の策定支援
- ・スマート農業技術等の導入による安定的な御嶽はくさいと子牛の生産を推進

【松本】

- ・新規就農者の確保、栽培技術・経営管理の習得等による育成と地域への定着を支援
- ・気象変動に対応した松本地域ブランド農畜産物の安定生産への支援
- ・規模拡大や農作物の高収益化を進めるための基盤整備及び農業水利施設の長寿命化とDXを推進

【北アルプス】

- ・需要に対応した米生産や水田への園芸品目の導入を推進
- ・北アルプス山麓の立地条件や特色を活かし生産された農畜産物や加工品の認定の推進と、製品の輸出に取り組む事業者への支援

【長野】

- ・子どもが憧れる、果樹生産者の育成(果樹栽培のトップランナー)
- ・果樹の樹園地継承や、無人自動草刈機等の導入によるスマート農業の推進
- ・地域の共同活動(農村RMO)による、地域特産品の生産安定

【北信】

- ・需要に応じた米生産を基本に、良食味米や業務用米・酒米の生産拡大と収益性の高い米生産を推進
- ・果樹の戦略品種等の生産拡大と高位安定生産を推進